

第34回大阪府新型コロナウイルス対策本部会議 議事概要

- と き：令和3年1月8日（金曜日）13時30分から15時10分まで
- ところ：新別館南館8階 大研修室
- 出席者：吉村知事・田中副知事・山野副知事・山口副知事・副首都推進局長・危機管理監・政策企画部長・報道監・総務部長・財務部長・スマートシティ戦略部長・府民文化部長・IR推進局長・福祉部長・健康医療部長・商工労働部長・環境農林水産部長・都市整備部長・大阪港湾局長・住宅まちづくり部長・教育長・府警本部警備部長・大阪健康安全基盤研究所公衆衛生部長・大阪市健康局首席医務監

【会議資料】

会議次第

- 資料1-1 現在の感染状況について
- 資料1-2 現在の療養状況について
- 資料1-3 感染状況と医療提供体制の状況について
- 資料1-4 夜間（18時～24時）における人口増減状況
- 資料1-5 休業・営業時間短縮要請への協力状況
- 資料2-1 発生状況や今後の対応に関する専門家の意見
- 資料2-2 （参考）新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針（令和3年1月7日変更）
- 資料3-1 レッドステージ（非常事態）の対応方針に基づく要請
- 資料3-2 （参考）レッドステージ（非常事態）の対応方針に基づく要請 新旧対照表
- 資料3-3 （参考）関西・府県市民緊急行動宣言（関西広域連合）
- 資料4 新型コロナワクチン接種の取組状況について

【吉村知事】

- ・皆さんお疲れ様です。
- ・大阪の現在の感染状況ですが、昨年12月の間そして年始まではなんとか感染の急拡大というのは抑えることができたと思っています。
- ・これは、府民の皆さん、事業者の皆さんのご協力があって、大阪モデルの赤信号も点け、時短要請について厳しいお願いもして、何とか1日の陽性者数が200人から300人ということで、急拡大は抑えることができたと思っています。
- ・一方で、東京、首都圏では、12月末の大晦日から1,300名を超えるということで、右肩上がりの状況になっています。
- ・そして、大阪圏においても同じ大都市ですから、同じような感染拡大に入る可能性は十分に高いと思っています。そしてまた、大阪圏と東京圏というのは、常にビジネスでも繋がっています。人の交流でも繋がっています。そういった意味で、首都圏だけが伸びて、大阪圏だけが減少に入るというのは、非常に楽観的な考え方なんじゃないかと思っています。
- ・そんな中で、大都市圏でウイルスが広がりやすい特性、そして冬場に、ウイルス全般で感染力が強ま

るという傾向を踏まえたときに、やはり危機意識は強く持つべき時期だと思っています。

- ・これまで、何とか 200 人、300 人台で抑えていましたが、2 日前には 560 名ということで、一気に感染者が増加し、そして昨日は 600 名を超える数になっています。
- ・また、東京においては 2,000 人を超えるという状況で、全国的にも（1 日あたりの）感染者が最多（を更新する）というところが多く出ている状況です。
- ・あわせて、大阪の医療体制は非常にひっ迫した状態にあります。重症病床使用率も非常に高い水準です。
- ・大阪モデルの赤信号を点けて、医療非常事態宣言を出している中、感染がこの 2 日間で急拡大しているという状況でもあります。
- ・この状況を考えたときに、大阪においても非常事態宣言の発令を要請すべき時期に入った、そして、東京、首都圏で行われている対策と同様の対策を今の時点でとるべきではないかというのが、基本的な僕の考え方でもあります。
- ・今日は現在の感染状況、療養状況について、詳しくこの会議において分析するとともに、緊急事態宣言発出の要請の要否についても皆さんにご意見をお伺いしたいと思います。
- ・また 1 月 11 日までの時短のお願いをしていますから、その先をどうするかということも、当然決めなければなりません。もともと、その趣旨で 1 月 8 日に会議を開く予定もしていたわけです。
- ・これを議題としまして、大阪が今、非常に厳しい状況にありますけれども、何とか対策をしっかりとすることで、乗り越えていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

※資料 1-1 に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料 1-2 に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料 1-3 に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料 1-4 に基づいて、危機管理監より説明。

※資料 1-5 に基づいて、危機管理監より説明。

【田中副知事】

- ・先ほどの説明に対する確認ですが、1 月 6 日に感染者が急激に増えた理由として、例えば正月明けに検査数が大幅に増えたからではないかとか、あるいは、暮れの忘年会で少し気が緩んだのではないかとか、あるいは全く新たな局面に入ったのではないかと、いろいろなことが言われています。
- ・先ほどの説明で、正月明けの検査件数が増えたことによる一時的なものではないという説明がありましたが、そうなのでしょうか。

【健康医療部長】

- ・資料 1-1 の 10 ページをご覧ください。お正月休みの間、検査を我慢された方が、一気に検査に殺到したのではないかとというイレギュラーな数値であるという可能性はあるということで、足元の 3 日間の発症日をプロットしたのが 10 ページのグラフです。
- ・見ていただきますとわかりますように、1 月 3 日に発症された方が最も多いです。この足元の 3 日間が多いということですので、1 月 4 日以降は通常どおり検査体制を運用しておりますので、これまで検

査を我慢された方が急激に今の感染者として確認されているわけではないのではないかと考えております。

- ・これを6日間遡って推定感染日といたしますと12月の末あたり、ただしこの点線囲みの中は、今日明日の感染者が出てきますと、さらに積み増しされますので、場合によっては、ピークは12月末ではなくて、1月になっても、まだどんどん感染日あたりの感染者が積み増しされるという可能性はあります。

【吉村知事】

- ・それに関連してなんですが、なぜ1月6日、7日に560、607名と急増したのかという分析が重要なことだと思います。
- ・もちろんこれは判明日なので、感染してから発症し、検査をした結果、判明日が6日7日ですから、そこで急増したわけではないんですけども、年末年始の医療機関の特殊性というのは当然入っているし、全国でも同じような傾向になっていると言う人もいます。
- ・これは（年末年始は）検査がどうしても脆弱になりますし、それから検査を受ける方も、年末年始のど真ん中ではなくて、正月が明けてから病院に行こうというのは、症状が重くない場合のよくある行動パターンだと思うんですが、先ほどの話でいくと、1月3日の段階で発症者が多いです。
- ・1月4日から検査を受け付けているということは、5日6日7日でぐっと増えているのは、我慢したり検査控えしたものではないと。だから検査の影響ではない、という意味なんですかね。
- ・医療機関の影響というより、純粹に年末の感染者が増えたのが年始に判明しているという見立てということですね。

【健康医療部長】

- ・（新規陽性者が多いのが）1日だけであれば、例えば昨日感染者の減があったということであれば、検査が滞留して感染者が一時期増えたという可能性も高かったと思うんですが、昨日、一昨日を含めて3日間を見ますと、発症日ベースで考えると、この間、検査を先延ばしされているわけではありません。
- ・それが一つと、グラフを見ていただきたいのですが、実は年末年始の6日間、非常に感染者が高止まりをして、その中でも、既に、年末年始の250人から260人発生していた感染者の中で20代30代の感染者の比率が増加をしておりました。35%程度まで増加をしておりましたので、若い世代に感染が広がっているという兆候は、年末年始の頃からすでに始まっていたと考えております。
- ・そういった新たな感染の局面に入ったということと、10ページの発症日のグラフを考えますと、どちらかという和一時的な感染者の増加ということではなくて、この感染増加の傾向が続く可能性が高い感染拡大ではないかと見ております。

【吉村知事】

- ・本人による検査控えや、医療機関の検査が少し脆弱になる。あるいは医療検査控えとかではなく、560人、607人になった。これはいわゆる年末、クリスマスであったり、そこからの年末の忘年会とかホームパーティーとか、人が非常に交流する機会が増えたところに、どうも特に若い人を中心に感染が増えたのではないかと分析ということですよ。
- ・そうすると、さっきの危機管理監からの報告で、1月1日以降、人流という意味では下がっているとい

うことでした。陽性者が溜まって今 560 人、607 人になっているわけじゃないのであれば、来週の傾向としたら、人流の傾向が多分出てくるのかなということになるわけですけど。

- ・来週の子想は誰にもできないのでなんとも言えないですけども、年末の人の多く集まっているところが一つの要因だとすると、年始から、人が動きはある程度少なくなってきた結果が来週出てくる可能性もあり得るということなんですかね。

【健康医療部長】

- ・専門家のご意見も得たいところなんですけど、1月1日については、先ほどの危機管理のデータでも人流が大変落ちていきますので、1月1日の人流の影響がマイナスに働くとすれば、概ね確定までおおむね6日間、感染日まで6日間で12日後ということですので、三連休明けに、マイナスの効果として、場合によっては出る可能性はあると思います。
- ・ただ、必ずしも今の感染拡大が人流だけで全て説明できていないという傾向もありますので、そこは1月1日に落ちたから来週感染の抑制が図られるという見立ては、現時点ではなんとも言えません。

【吉村知事】

- ・1日あたり200台300台ぐらいで12月中は何とか抑え込んできたのが、ぐっと増えているのは、やっぱり、12月24日クリスマスのあたり以降の何らかの要因で感染が急激に増えている。
- ・特に飲食の場面だと思いますけれども、若い人が飲食する機会が非常に多いのは、クリスマスとか年末の忘年会とか久しぶりに会う友達とか、そういうところでぐっと広がった。後はカウントダウンもあると思いますが、そういう場所で広がっているというのがまず一つあり得るということですかね。

【健康医療部長】

- ・そうですね、年末年始の250、260の高止まりの間には、クリスマスの期間での人の集まりに参加されたらとエピソードを持たれている方も多かったんですが、今、感染が判明している方は、クリスマスシーズンのエピソードでなくて、年末年始のエピソードを持たれている方が多いということです。

【吉村知事】

- ・見えているだけでこれですから、感染は広がっているということなんでしょうね。無症状の人もいるわけですから。
- ・大阪健康安全基盤研究所に聞いてみたいんですが、東京であれだけ、感染が急拡大しているというのは、僕自身も本当になぜかと思うところもあります。東京と大阪は、大都市で繋がっています。コロナが始まる前は東京と大阪の行き来の人数っていうのはだいたい、1日で8万人ですから、年間で言うと往復で3,000万人が行き来しています。
- ・大阪と和歌山の行き来より大阪と東京の方が実は多いというのが、大阪の経済都市としての大都市性の部分でもあると思います。距離は離れているけど、人の交わりという意味では、結構近いところにあるのが東京だと思います。
- ・東京であれだけ増えるとなると、大阪でもこの可能性を十分考えなきゃいけない。あれだけ右肩上がりに増えている理由はどこにあるんですかね。

- ・根拠はないのですが、変異株というのが（考えられると思います）。今までと比べ、完全に感染の角度というか、ベクトルが少し違う気がするんですけど、そのあたりは何か専門家の中で分析されていますか。確たるものはないと思うんですけども。何であれだけ東京、首都圏で急速に増えているのか。これをちゃんと考えないと、大阪でも同じように起きる可能性が十分ありますので。
- ・ちょうど増え始めたのは、12月末前ぐらいですよ。（東京は陽性者が）800人ぐらいから、31日にぐっと増えて、年が明けて年末年始は当然検査の状況もあるんでしょうけど、12月末ぐらいから感染の拡大は明らかに広がっていると思うんですけど、角度もスピードも高いと思うんですよ。
- ・大阪でも本当に注意しなきゃいけないんですけど、どう思われていますか。

【大阪健康安全基盤研究所公衆衛生部長】

- ・東京が増えているということの、確たる科学的根拠はないんですけど、いくつかの可能性についてお話をさせていただきます。
- ・まずわかりやすいのは変異株です。
- ・国立感染症研究所が中心になって今のところは解析しているわけですが、これからは大阪健康安全基盤研究所でも（できるようになります）。英国や南アフリカで見つかった変異株について、これは非常に感染しやすいと言われてはいますが、それが今のところ多いかということ、それほど多くないと国立感染症研究所は言っております。
- ・ですので、変異株が入ってきて一気に感染拡大したという可能性は現時点ではあまり考えにくいと思っています。入っていることは事実ですが、その全体の割合は非常に少ない。
- ・ただ、解析しているのが、全体の10%ぐらいだそうです。ウイルスを集めて、全部は一気にできませんので、10%ぐらいです。10%を見ている中でどうだと言われても、あとの9割はわかりませんということになります。
- ・もう一つ、東京と大阪で詳細なデータを存じませんが、年齢構成は多分、東京の方が若いんじゃないかと思います。要するに20代とか30代とかそういう年齢構成の人が大阪に比べて多い。要するに大阪の方が広い意味で高齢化社会です。
- ・若い人はかかっても元気ですから、どんどん出歩いて、感染を広げてしまう。ですが、逆に言うと、死亡率は大阪は高いですよ。
- ・それは、高齢者が占める割合が多いということで、東京では、患者さんは増えていますが、死亡率が少ないというのは、まだ若い方々の中で留まっている、全体の年齢構成が若いとすれば、当然高齢者にいく割合も少ないということです。
- ・あと、統計をお持ちかどうか分からないですけど、東京のほうが、若い人が全国から集まっている傾向が強いと思います。若い人は単身でいたりするということで、大阪のほうが、ご家族というかおじいちゃんおばあちゃん、ご両親も含めて、同居している率が高いんじゃないかと思っています。
- ・若い人同士では、例えば集合住宅というか合宿というか、よくホストの方はそうだと思いますけれど、そういうところで増えてしまう。
- ・ただし、軽症・中等症、あるいは無症状は、4割いるとよく言いますが、重症は絶対数は増えるんですけど、率としては少ないということで、そのようないくつかの理由を推定しております。

【吉村知事】

- ・インフルエンザとか季節性のウイルスが流行る時期ですが、だいたい、1月に突出して上がるじゃないですか。
- ・そう考えると、今年は、いろんな対策をとっているのですが、インフルエンザがすごく抑えられていますけれども、ウイルスの特性、真冬に強いということを考えると、現状を見ると、当然感染率が上がるというのは当たり前とかまさにそうなんだろうなと。
- ・12月あたりに人が交わる機会が多いから、1月に増える。12月も1月も2月も冬だと思うんですが、だいたい、インフルエンザも1月にグッと上がったりしているじゃないですか。
- ・コロナも今、1月に大阪だけじゃなく他のエリアも、東京も上がってきている。1月に突出するのは、やっぱりこの12月とか年末年始の人流であったり、人の交わりがものすごく増えるのが、反映してきているということになるんですかね。

【大阪健康安全基盤研究所公衆衛生部長】

- ・先ほどの解析のところで、発症日別感染者数が示されていますが、1月3日が多くなっています。これは検査をした日ではなくて、判明した日から遡って発症日を想定しているんだと思います。
- ・そうすると、例えば1月3日を想定すると、この病気の場合、潜伏期間がトータル5、6日という場合が多いわけですから、年末あるいは年始にかけて感染した、要するに人流が多いときに感染した人が多いと思います。
- ・それから、コロナとかインフルとかが、どうして冬に増えていくのかということですが、寒いと家の中に居て窓を開けなかったり、暖房して、密閉という形になります。もちろん乾燥しているのだから、飛沫が小さくなってふわふわ浮きやすくなっている状況も生じると思います。
- ・その証拠に、家の中にいるというのが結構大きなファクターでして、季節性のインフルエンザの流行は、北半球、日本も含めてアメリカ合衆国もそうですけど、これはいわゆる冬に流行るんですけど、熱帯では雨季に流行ります。熱帯ですから、季節はないわけですが、雨季には、彼らはあんまり外に出ないそうです。だから、いわゆる三密とか密な状況の中で、どうしても濃厚接触、濃厚感染してしまう。
- ・コロナも、夏に、第二波と言われるピークがありました。そして今、第三波が来ています。
- ・夏も免疫状態が一定だとして、夏にも山があるというのは、エアコンを使う密閉という状況、換気が悪い状況が生まれやすいときに、感染が拡大するのではないかと。それにプラスして、冬の要因というのは先ほど申し上げました。
- ・人間側から言うと、冬は、乾燥していますから喉も渇くし温度も下がる。そうすると喉の防御機能が下がる。マスクをしているというのは、そういう意味でもいいことです。
- ・ウイルス側からすると、飛沫粒子が小さくなって、浮きやすくなるというのは確かです。

【吉村知事】

- ・本部会議に先立って、大阪府の専門家会議の専門家の皆さんにいろんなご意見をお聞きするというのが、この会議の通例なんですけれども、大阪府の専門家会議の皆さんから、この1日2日で急増している要因について、どのような指摘がありますか。

【健康医療部長】

- ・ そうしましたら、議題2に行かせていただいでよろしいですか。
- ・ 資料の2-1に、今の発生状況について、専門家のご意見をいただいでおります。

※資料2-1に基づいて、健康医療部長より説明。

【吉村知事】

- ・ 陽性者が増えた原因の分析なのですが、クリスマスを含めた年末以降、外食はもちろん、それ以外でも普段会っていない人達が会い始めて、増加しているのではないかと思います。年があけて、普通の仕事の体制に戻り、それぞれの職場に戻れば、成人式はありますが、普段会っていない人と会う機会は減ると思いますが、感染に対する寄与というのはどうなるのですか。
- ・ 決して楽観的なことを考えているわけではないのですが、年末に人流が多くて陽性者が増えているのであれば、感染対策を実施したうえで通常的生活スタイルに戻せば、普段（仕事で）会う人、常に一緒に生活している家族と基本的に会うということになれば、変異株ではない限り感染はある程度収まっていくのでしょうか。

【健康医療部長】

- ・ 一つ留意しなければならないのは、これまでの第二波・第三波でもそうですが、若い世代の方は無症状、あるいは軽い症状で、ご本人が気づかない方が多いです。すでに、今非常に多くの10代20代の感染者がいらっしゃるということを踏まえますと、ご家族などと接点があるとなると、このあと上の世代に感染が広がります。
- ・ 若い方に感染が広がった後、次の（高齢者の）世代に接点がある方が留意されないと、（高齢者世代に）感染が広がるということはこれまでの何度かの経験で言いますと、おのずと生じる事態という想定はしております。

【吉村知事】

- ・ 今、陽性者は600人を超えるという状況ですから、これまでの200人、300人という数字と比べると倍になっているので、陽性者数から重症者の割合もある程度見えていますから、確実に増えてくるだろうと。病床のひっ迫状況は、分母の医療キャパシティと分子の陽性者数によります。分子の陽性者数の傾向は、ある程度把握はできたと思います。もうしばらくこの増加傾向が続くことを当然想定しないとイケません。
- ・ 中等症も非常にひっ迫している状況にあります。医療のキャパシティをどこまで増やしていけるか。年末に様々な対策をしましてし、支援金の制度等も作っていますが、どういう状況ですか。陽性者が増えてきたときに、どう対応していくのか。

【健康医療部長】

- ・ 様々な支援メニューを大阪市にもご支援いただいで、用意いたしました。また、退院基準を満たした方

- を引き受けていただく療養病院への支援メニューも作りましたので、できるだけコロナ病床を速やかに空けるといふことと、1床でも多くコロナ受け入れ病院を増やすという努力は続けたいと思います。
- ・ただ、そこで獲得できる病床数というのは、例えば200、300床獲得できるかと言いますと、その規模ではありません。1床1床積み上げながら、何十という単位で病床を空けていくということになります。
 - ・先ほど申しあげました資料1-2の2ページですが、軽症中等症の運用数は853/1,264床ですので、見た目上は余裕が400床ありますが、この中で特殊な病床が100床ほどあるとして、300床ほどの余裕しかありません。
 - ・上積みと速やかな退院を進めながら、入院による治療が必要なコロナ患者の方を何とか入院させていくということになります。
 - ・病床が劇的に積み増しされるということは、大変申し訳ないのですが、今の医療機関との調整状況から見て考えにくいと思っています。1,300床というのが多少増えたとしても、今の大阪の医療機関が対応できる限界に近い数字ではないかと考えています。

【山野副知事】

- ・資料1-4によると、人の流れが年末年始にかけて落ちています。一方で、健康医療部の分析によると、（発症日別陽性者数は）1月3日がピークとのことですが、これをどうやって整合性を説明するのがよくわかりません。単純に言うと、キタ・ミナミには出ていないけれども、地元で自宅飲みや深夜カラオケあるいは家族・親族での集まりで感染したという理解でいいのですか。

【健康医療部長】

- ・資料1-1の26ページの「夜の街の滞在エリア別の状況」を見ていただきたいのですが、エピソード的には飲食の機会に感染される方が非常に増えております。
- ・ミナミ・キタも増加に転じていますが、たしかに今のこの急拡大を説明しきれないほどには増加はしていないというのが、今の副知事のご質問の答えになるのではないかと考えています。
- ・滞在エリアが「複数・不明」であったり、あるいは飲食店に行かれたと記録はされていないですが、例えば家に集まって友人と宅飲みをされたといった、夜の街の滞在歴に表されない接触機会、マスクを外した状態での接触機会の増加というエピソードは多く確認されています。

【財務部長】

- ・今日の資料を見ていると、山野副知事の質問にもあったのですが、（資料1-1の5ページを見ると）陽性率は、この間ずっと5%から7%ぐらいですよ。検査数を見てみると、1月1日から3日は2,000件前後で、今は9,000件やっていますよね。
- ・そうすると、感染者という陽性率が同じだとすると、感染者が増えるのは当たり前で、大阪の検査能力が今どれぐらいなのかわかりませんが、東京だと14%ぐらいの陽性率とこの資料ではなっているので、今2万件以上の検査をやっているのかなと思いますけれども、検査数が増えたので感染者の絶対値は増えるというのは当然かなとは思いますが、感染者が増えれば医療がひっ迫するのは当然なので、それを防がないといけない。

- ・キタ・ミナミで自粛要請をしても、感染者が減るという傾向にはもうないのではないのでしょうか。さきほどおっしゃったように、無症状の感染者というのはものすごく広がっています。知事もおっしゃっていましたが、そういうふうに理解するのが正しいのかなと思うのですが、どうなのでしょう。

【健康医療部長】

- ・そういう意味では、人口規模が小さい市においても、かなりの感染者が確認されておりますので、大阪市内に関わらず、かなりターゲットを絞りにくい状態で、感染が拡大しているというのは間違いないと思います。
- ・検査数が増えているから、感染者の確認が増えているのではないかということですが、それは、一つにはありがたい傾向といいますか、どんどん先んじて感染者を捕まえて結果として、感染者が増えるというのは、これはありがたい傾向だと思うのです。
- ・その場合は、おそらく症状が出る前に軽い状態で発見ができるので、病床のひっ迫が進むということは基本的には起こりません。軽い段階で自宅療養、あるいはホテル療養をしていただいているということになります。
- ・一方で、入院が必要な方、酸素吸入が必要な方というのが、昨日もこれまでに最大の入院者数が出たところですので、今の検査数が増えているのを、早く検査できていると考えられるまでの状態には至っていないのかなと思います。
- ・発症から確定までの日数というのは、第三波では第二波よりも1日短くなりまして、だいたい6日を若干切るぐらいになっておりますが、これが大幅に例えば3日ぐらいで見つけられていると、そこまで短縮したら、おそらく検査をすごくしているので、欧米などのようにどんどん感染者が見つかる状態になると思うのですが、まだそこまで掘り起こしをして検査をできているという状態には至っていないと見えています。

【教育長】

- ・倭委員のご指摘の中で、以前に比べて濃厚接触者の検査の陽性の割合が増えていると、変異種が増加しているのではないかということを書かれていますが、健康医療部的にはこのエビデンスというのはとれているのでしょうか。

【健康医療部長】

- ・先ほど大阪健康安全基盤研究所の公衆衛生部長からもお話がありましたが、大阪府内で変異種はまだ確認はされていません。
- ・濃厚接触者の陽性率が高まっているのではないかということですが、濃厚接触者の陽性率については一部の市町村について、確認しております。濃厚接触者中の陽性率が高まっているというのは、12月からということではありません。それまで10%を切る濃厚接触者のうちの陽性率というのが10%を切る程度だったのが、概ね20%から25%、濃厚接触者として検査をさせていただいた方のうちの5人に1人、もしくは4人に1人の方が陽性となるという状況は、11月あたりから傾向が出ています。
- ・ただ、この足元1週間程度で、その濃厚接触者の陽性率が急増しているかどうかというのは、もう少し詳しく見ないとわからないと思います。

- ・倭委員はこの間、日々の毎日の患者さんを診ておられますので、陽性率が高いなという実感を持たれているのではないかと思いますので、引き続きそこは注視が必要だと思います。

【山口副知事】

- ・これは、お願いなのですが、11月27日に時短要請をして、できるだけ不要不急の外出を止めてくれということで、急拡大を12月ぐらいまでは抑えていたわけです。
- ・その後、年末年始、特に年始になってから急拡大をしています、データで見れば、キタとミナミの出入はそんなに増えていないと。
- ・いろんな報道を見ている、初詣もそんなに行っていませんし、多く人が交わったという形跡は例年に比べれば相当減っているのではないかと推察されるにも関わらず、感染者数が過去最高の状況になっています。
- ・今までの対策で抑えられていたものを超えるような要因が何かということ、今日も専門家の意見もありましたけど、やっぱりそこをしっかりと捕まえないといけないのかなと思います。
- ・時短要請をかけて本当に抑えていけるのか、自宅対策みたいなことをもっとしっかりやってもらわないといけないのか、あるいはもう人との接触を極力避けないと抑えることができないのか、なかなか難しい問題でもありますが、専門家からもご意見を聴取していただくということが必要ではないかと思っています。
- ・本当に原因が私はなかなか腑に落ちないというか、なぜこういうことが起こっているのかということが、人の行動からだけではなかなか説明しにくいんじゃないかと思っています。
- ・先ほどの変異株だとか、感染力が強くなっているのではないかと、冬場でさらにウイルスが活発な動きをしているのではないかということになれば、それに即した対応を考えなければならぬと思いますので、その点専門家の方にご意見を聞いていただけるとありがたいと思います。

【健康医療部長】

- ・国の分科会でも接触機会を減らすしかないというご意見があります。夜の飲食の機会を減らしていただく、多人数での飲食の機会を減らしていただくということを重点的にお願いしていますが、その効果でどこまで抑制できるか、大阪府はトライアルをしていると思いますが、それによって、数日の感染拡大の状況にもよりますが、そのあたりはしっかり分析をして、また専門家にもご意見をいただこうと思っています。

【吉村知事】

- ・さきほどまでの議論で、大阪ではこの2、3日間で感染が急拡大しており、倍近い拡大となっており、（前週比では）約1.4倍の状況です。
- ・そして、原因はなかなか特定は難しいですが、専門家の意見であったり、今の議論を踏まえると、やはり年末は人の動きが活発になって、会食であったり、ホームパーティーも含めて、そういった場面が非常に増えたのではないだろうか、ということです。
- ・これまで、21時までの時短のお願いをして、なんとか12月中は感染を抑える力の方が強かったですが、今は感染を拡大させる力の方が強い状況になっています。

- ・感染を何とか抑えないと、病床としては非常にひっ迫した状況で、困難な状況になってしまうというのが今の現状だと思います。
- ・そう考えたときに、夜9時までの時短要請のお願いをしているのが12月でしたから、それより一段強いお願い、人流を防ぐ方策、ウイルスは口の中に多くいますから、特に会食・飲食の場面、どうしても不特定多数の人が交わる場所については抑えていかなければいけないです。専門家の意見を踏まえても、より一段上の感染防止策を府民の皆さんにもお願いしないと医療体制は崩壊してしまうという状況だと思っています。
- ・となれば、これは緊急事態宣言の発出を国にお願いし、最後の国の判断にはなりますが、そこをきちんと検討してもらいたいということを要請すべき段階に入っています。
- ・あわせて、大阪府としても、具体的な策としては、今よりも感染拡大防止に向けた、人流の抑制に向けた対策をとらなければならない、そういう時期だと思っています。
- ・こう考えると、僕自身はやっぱり緊急事態宣言の発出を要請し、そして、今、東京で対策がとられていますが、同様の措置を大阪でも行うべきではないかと思っています。
- ・その辺りについて、僕はそう思いますけど、皆さんのご意見を聞かせてもらえたらなと思います。

【田中副知事】

- ・先ほどありましたように、直近の感染の拡大状況、それに対する専門家の先生方のご意見、あるいは医療体制のひっ迫状況が全然好転してない、さらに、首都圏のいろんな動きなどを考えますと、これ以上感染が拡大しないように、先んじて宣言の要請をするということは私は必要だと思っています。

【山野副知事】

- ・さきほど田中副知事から発言がありましたが、私も結論から申しますと、今、緊急事態宣言を国に検討してもらうように要請する時期に来ていると思います。
- ・12月3日に医療緊急事態宣言をしまして、約1月かけて、あらゆる方策を講じてきました。
- ・なんとかひっ迫する病床の中でも、いろんな対策を打ってここまで来たんですが、今年に入ってから感染者数を見ますと、医療体制が本当に瀬戸際の状態になるんじゃないかと、刻一刻そういう実態が迫っているんじゃないかということをご想像せざるをえないと私は思っております。
- ・医療体制を絶対に崩壊させないということが極めて重要なことだと思っておりますので、今この時期において、さらに踏み込んだ対策を講じるために、国において緊急事態宣言の検討をお願いする時期が来たと思っておりますので、私も賛成でございます。

【山口副知事】

- ・専門家のご意見を聞いても、500、600人を超えていますので、急に下がっていくことはなかなかないんだろうと思います。これだけ陽性者が出るということになれば、一段強い措置を取らないとなかなか減らすことは難しいと思うので、非常事態宣言を要請するというのは致し方ないと思います。
- ・ただ、知事も言うておられますが、かなり痛みを伴う措置になりますので、府としてもできる限りのことを考えていかなければなりません、あわせて、休業要請しているところ、あるいはそれによって雇用が不安になるということが起こるという可能性は十分考えられるので、国にしっかり対策をお願い

するというをやっているしながら、非常事態宣言を要請して、抑え込みを何とか図っていくべきではないかと考えています。

【吉村知事】

- ・まさに、この 2 日間で急増しているという今の大阪の感染状況と、そして大阪の医療のひっ迫状況を踏まえて考えたときに、国に対して緊急事態宣言の発出を要請するという判断をしたいと思います。
- ・最終的には、これは国の判断になりますから、まさにそれをどう判断するかは、国の中で検討されるということになると思いますが、それを要請していきたいと思います。
- ・あわせて、今首都圏で行われている措置、基本的対処方針が前提になりますが、それに基づく措置と同様の措置をやはり今の段階で大阪府においても実施をしていくべきではないかと思っています。
- ・府民の命を守るためにも、それから社会のダメージを最小限に抑えるためにも何とかそれをしなければならぬと思いますので、それを大阪府の決定としたいと思います。
- ・あわせて、これは広域連合で議題にあがりましたが、大阪・京都・兵庫で感染が急増した場合には、京阪神は経済圏として一体なので、3 府県知事から共同で足並みを揃えて対応していこうということも広域連合で話し合って決定したところでもあります。
- ・本日、京都府、兵庫県におかれても、本部会議を開催しているということですから、その決定も踏まえた上でこの 3 府県知事で共同して国に対しての要請の協議に入りたいと思います。

※資料 3-1 に基づいて、危機管理監より説明。

【吉村知事】

- ・さきほど、緊急事態宣言の発出を要請するという判断をいたしましたので、速やかに京都府知事、兵庫県知事の決定も踏まえた上で、西村大臣との協議の場を設けたいと思います。
- ・1 月 11 日までの措置を前回決定しましたので、本日 1 月 8 日に本部会議をしているわけですが、1 月 11 日以降に日がずれ込むというのは当然考えられますので、現状の対策は日ごとに延長しますが国との協議によっては当然変わってくるという前提で、この内容で延長します。
- ・前回の内容に加え、緊急事態宣言が出されているという新たな事情が首都圏にありますから、これは往来自粛は強く要請するという事です。
- ・あとは、成人式前後の懇親会には参加しないことが新たに加わっていますが、基本的には前回の措置を延長して緊急事態宣言について国への要請をし、そして協議に入るという対応をとりたいと思います。
- ・それから僕のところにも実務的な問い合わせもきていますが、成人式をどうするかということで市町村長の方が今回の急速な動きもあって悩まれているというのは聞いています。
- ・これは市町村長が最後判断することになりますが、一律で大阪府において成人式が禁止というわけでは当然ないです。
- ・一生に一度のことですし、非常に重要な思い出にもなるというもので大切なものだと思っています。
- ・これは延期されたり、あるいは実施されたり、あるいは別の形だったり、様々な市町村長の判断があると思いますが、ここはその判断は尊重します。ただし、式典後の飲み会・宴会は強く控えてほしいということを、それぞれの市町村長にも発信をお願いしますということは、強くお伝えいただきたいと思

ますので、よろしく申し上げます。そのあたり市町村との連絡はどうでしょうか。

【危機管理監】

- ・昨日、各市町村に対して、危機管理室から、成人式前後の飲み会を控えるように会場で呼びかける、あるいは会場で掲示をしてくださいということをお願いをしております。
- ・それから、緊急事態宣言の発出の要請のニュースが出ましたので、すぐに緊急事態宣言が出されると誤解されている市町村もありましたので、この三連休中に緊急事態宣言が発出されることはないと思われまますということも申し添えて、お伝えをいたしております。

【司会】

- ・資料3-1の1ページ目ですが、原案では、要請期間が「1月9日から1月31日まで」となっておりますが、「1月9日から緊急事態宣言発出までの間」と変更させていただきます。
- ・2ページ目についても、期間について「1月11日までとしている期間を1月31日までに延長」としておりますが、「緊急事態宣言発出まで延長」と変更させていただき、これで決定とさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

【吉村知事】

- ・2点確認させてください。
- ・1点めは緊急事態宣言の要請の範囲ですが、今まで大阪市が飲食の中心だということで、21時の時短は大阪全域全般ということで、松井市長とも相談しながら進めてきました。
- ・今、大阪市以外にも様々広がりを見せつつある、感染が非常に急拡大だということで、大阪の場合は京都・兵庫と違って、日々の出入りというのは、例えば、河内長野に住んでいても大阪市内で仕事をしていると、大阪府全域が通勤圏内ですので、そういった意味で（要請の範囲は）大阪府全域ということで考えたいと思います。
- ・2点目ですが、宿泊療養施設ですが、さきほど健康医療部長からも、宿泊療養施設もさらに拡大させていかなきゃいけないということですが、医療機関はもちろんそうなのですが、使用率はまだまだ空きがあります、そのあたりどうですか。

【危機管理監】

- ・現在7ホテルで2,000室確保いたしております。
- ・毎日200の方が宿泊療養されるという前提でシミュレーションをいたしますと、2,000室でなんとか回れるというシミュレーションなのですが、昨日から240人の搬送が続いております。
- ・240人の搬送が続くということでシミュレーションをいたしますと、今の部屋数では2週間後に非常に厳しい状況になるという結果になっておりますので、2,400室体制に向けて、二つのホテルと今協議に入っております。240人が続いたとしても対応できるように準備進めていきたいと思っております。

【吉村知事】

- ・そこはぜひ速やかに進めてもらいたいと思っております。

- ・それから他府県の事例ですけれども、宿泊療養施設でそのままお亡くなりになる方の報道もあります。これは大阪においても十分あり得る話だと思っています。
- ・特に病院の体制がひっ迫してくる状況は全国的にも大阪もそうです。ホテル療養の中で、どうしても救急車で運ばれる方も出てきますし、そういったリスクは高まってくるとおもいます。
- ・したがって、宿泊療養施設の数を増やすのはその通りお願いしたいのですが、中におられる方の酸素飽和度であったり、チェックを完璧にはなかなか現場の看護師の話を知っていると難しいとは思いますが、新しい機材ですとか、お金で買えるものは大阪府として支出するので、ホテル療養にいらっしゃる方の健康状態を管理しやすくなるような仕組みというものについては、より強化してもらいたいと思います。パルスオキシメーターもそうですが、計れるものがあるのであれば、それは準備していきます。

【健康医療部長】

- ・ありがとうございます。今、看護協会のご協力を得て、各ホテルで看護師が本当に力を尽くして対応いただいております。
- ・入られるときに酸素飽和度を確認し、要注意すべき患者にはきちんと対応しているという状況ですが、さらに人員体制の強化であったり、ホテルの中にいらっしゃる方のオンライン診療のラインを充実する、あるいは、知事がおっしゃられたウェアラブル端末を活用したさらなるリスク管理について強化していきたいと考えています。

【司会】

- ・確認ですが、資料3-1の（休業・時短要請の）区域について、現段階で大阪市域を大阪府域にすることではないということでしょうか。

【吉村知事】

- ・そのとおりです。現状は大阪市域の措置を継続します。これは何日間になるかはわかりませんが。
- ・その後、緊急事態宣言の発出の範囲は考えないといけません、東京都がやっているような措置についても大阪府全域でということでは考えないといけません。感染拡大が高い状況になっていますので、より一段強い措置をすべきと考えています。

【司会】

- ・先ほどの決定内容で変更ないということでしょうか。

【吉村知事】

- ・はい。

※資料4に基づいて、健康医療部長より説明。

【吉村知事】

- ・ワクチンについては、適切にそして迅速に実施できるような環境を今の中に準備しておきたいと思えます。
- ・すでに、このワクチンチームを、23 個目の健康医療部内のチームとして立ち上げたわけですけれども、1 月 13 日から、市町村とのワーキンググループの具体的な会合も始まるということなので、まずは都道府県の責務である、医療従事者に向けた優先接種をしっかりと実施していく。
- ・そして、高齢者の皆さん、大阪府内で 230 万人いらっしゃいます。ここは市町村事務にはなりますが市町村によって特徴がありますので、大阪府が広域自治体としてフォローしながら、結果的に府民である市民、町民、村民である高齢者の皆さんに適切にワクチン接種が迅速に行えるように、しっかりと今のうちから準備を整えていってほしいと思いますので、よろしくお願いします。
- ・また、時間がかかりそうな課題があればできるだけ早めに言ってほしいと思いますので、よろしくお願いします。

以上